

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 国語科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学力調査の正答率について、全国平均を上回り大変良好な状況である。しかし、基礎問題では75.0%、活用問題では68.8%だった。したがって、既習した事項の活用に課題があると考えられる。特に、「漢字を書く」（クラス正答率50.0% 目標値68.3%）に課題がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】 ①目的に応じて、書くことを選び、読む人に伝わるように分かりやすく書く。②漢字の読み書きの定着。</p> <p>【改善策】</p> <p>①日記やミニ作文を書く機会を設け、自分の伝えたいことを書けるようにする。実際に合わせたワークシートを用意し、記述しやすいものにする。</p> <p>②間違いやすい点を指導し、漢字10問テストを定期的に行って力を付ける。</p> <p>【評価】</p> <p>①日記やミニ作文を書く機会を増やした結果、書くことに対して、躊躇なく書けるようになった。今後は、ただ書くだけでなく自分の伝えたいことを明確にして、書けるようになることが課題である。</p> <p>②ミニテストを定期的に行った結果、学期末の漢字50題テストでは80点以上取れるようになった。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ベーシックタイムや国語の時間に漢字10問テストを行い、漢字に触れる機会を多く設定している。 物語の感想や説明文の要約、新聞の作成等、長い文章を書く機会を多く設定している。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①毎日の宿題を丁寧に取り組ませる。</p> <p>②授業の中で長い文章を書く場面を設定する。</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①漢字10問テストや学期末に行う50問テストで9割以上取れているか。</p> <p>②今までに習った漢字を文章中で正しく書くことができているか。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①毎日の宿題を丁寧に取り組ませる。</p> <p>②授業の中で長い文章を書く場面を設定する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①漢字10問テストや学期末に行う50問テストで9割以上取れているか。</p> <p>②今までに習った漢字を文章中で正しく書くことができているか。</p>
<p><方策></p> <p>①毎日の宿題を丁寧に取り組ませる。</p> <p>②授業の中で長い文章を書く場面を設定する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①漢字10問テストや学期末に行う50問テストで9割以上取れているか。</p> <p>②今までに習った漢字を文章中で正しく書くことができているか。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字の豆テストを毎日行ったことで、5年生で習う漢字の正答率は9割を超えた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 長い文章を書く際に、1～4年生までの漢字を適切な場所で使って書くことができないということが課題である。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ読み方をする漢字の意味を考えて書けるような指導。 習った漢字を丁寧に書くことの指導の徹底。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 習った漢字を文章の中で正しく使える児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 社会科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学力調査の正答率について、全国平均を上回り、大変良好な状況である。しかし、「特色ある地域の様子」の領域に関して、目標値に対して正答率が下回っている。（クラス正答率 50.0, 目標値 67.5%）自分たちが住んでいる地域以外のことはイメージがしづらく、教科書だけでは知識が定着しないことが課題だと考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】身近な地域の地理的環境についての理解を深め、都内他地域の一般的な地理的環境についての理解も深める。</p> <p>【改善策】</p> <p>①身近な地域については、実際に見学を行って理解する。都内他地域での一般的な環境については教科書や写真資料を用意し、それぞれの地域の特色について気付かせるとともに、身近な地域の様子と比較してまとめる。</p> <p>②板書の注目する箇所にマグネットなどを置き、視線移動の助けになるようにする。</p> <p>【評価】</p> <p>①一般的な環境と島の様子をその都度比較することで、身近な地域に対する理解が深まった。</p> <p>②板書は集中して、ノートにまとめることができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用して調べ学習を行ったり、実際の映像を見せたりして、間接的に経験できるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①教科書の重要語句をしっかりと押さえたり、ICTを活用したりして知識の確実な定着を目指す。</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①単元テストの正答率や、学力テストの結果。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①教科書の重要語句をしっかりと押さえたり、ICTを活用したりして知識の確実な定着を目指す。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストの正答率や、学力テストの結果。</p>
<p><方策></p> <p>①教科書の重要語句をしっかりと押さえたり、ICTを活用したりして知識の確実な定着を目指す。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストの正答率や、学力テストの結果。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの資料を活用して授業を行ったことで、興味・関心が高まり、単元テストでの正答率は9割を超えた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 時間が経つと1・2学期で学習したことを忘れてしまうので、定期的に復習の時間を設ける。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料から読み取り、考える時間を多く設定する。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の資料から課題を見つけ、自分なりに解決方法を調べたり考えたりすることができる児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 算数科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学力調査の正答率について、全校平均とほぼ同程度で、おおむね良好な状況であるが、個人差が大きいことが課題である。 「数と計算」などの基礎基本の問題の正答率が目標値を大きく下回っていることから、計算ミスやケアレスミスが多いことが課題だと思われる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】 ①加法・減法・乗法・除法の確実な計算力の定着。②式の立て方、計算の仕方を考察する。</p> <p>【改善策】</p> <p>①授業のはじめに100マス計算を行う時間を設ける。スタートや終わりの合図に大きいタイマーを活用する。</p> <p>②自分の立てた式や自分で解いた計算のやり方を言葉で説明したり、友達の解いた式や計算のやり方を言葉で説明したりする。</p> <p>【評価】</p> <p>①100マス計算を続けた結果、計算力が高まった。</p> <p>②授業中、自分の考えた方法を画用紙に書いて発表するということを繰り返した結果、分かりやすく説明できるようになった。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の問題ができていない児童にはプリントやドリルの応用問題を解かせ、その間にもう一人の児童を個別で指導している。 答えを求める際に暗算ではなく、筆算をさせて正しい答えが求められるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><方策></p> <p>①教科書や計算ドリルの問題を解く際に、計算過程も書かせる。</p> <p>②教科書や計算ドリルの間違えた箇所を理解できるまで解かせる。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p><検証方法></p> <p>①教科書や計算ドリルの正答率や学力テストの結果。</p> <p>②教科書や計算ドリルの正答率や学力テストの結果。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①教科書や計算ドリルの問題を解く際に、計算過程も書かせる。</p> <p>②教科書や計算ドリルの間違えた箇所を理解できるまで解かせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①教科書や計算ドリルの正答率や学力テストの結果。</p> <p>②教科書や計算ドリルの正答率や学力テストの結果。</p>
<p><方策></p> <p>①教科書や計算ドリルの問題を解く際に、計算過程も書かせる。</p> <p>②教科書や計算ドリルの間違えた箇所を理解できるまで解かせる。</p>	<p><検証方法></p> <p>①教科書や計算ドリルの正答率や学力テストの結果。</p> <p>②教科書や計算ドリルの正答率や学力テストの結果。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 計算過程を書かせたことで、単元テストでのケアレスミスがほとんどなくなった。 計算ドリルやテスト等で間違えた問題を繰り返し解かせたことで、苦手な領域を減らすことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 文章問題を解く際に、何が問われているのか分からないことがあった。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間を意識させながらも、見直しの時間を取ってケアレスミスをなくすこと。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な計算を正確に行い、問われている内容を的確に理解できる児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 理科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度の学力調査の正答率について、全校平均を上回り、大変良好な状況である。学習内容としては、4年生で学習する「動物のからだのつくりと運動」に課題があるといえる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基礎的な観察・実験技能の定着。②知っている事象でも、科学的に確かめてみようとする態度。</p> <p>【改善点】</p> <p>①観察・実験器具の使い方を初めて使うときには、実験器具カード等を活用するなどして丁寧に指導し、身に付けさせる。観察・実験の意味を丁寧に指導する。</p> <p>②身の回りの当たり前の事象でも確かめてみることで、分かることの楽しさを味わわせる。</p> <p>【評価】</p> <p>①ノート・プリントへの記入や実際に何度も使ってみることを通して器具の名称、道具の使い方などが定着した。</p> <p>②予想が外れることの面白さに気づき、自分で確かめてみようとする態度が育った。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの当たり前の事象でも、実験や観察をする時間を多く取り、確かめる時間を確保している。 実験をして結果をまとめた後に、実際の映像を見せて知識の定着を図る。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <p>①単元テストで間違えた箇所が分かるようになるまで再テストする。</p> </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <p>①単元テストの正答率や、学力テストの結果。</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①単元テストで間違えた箇所が分かるようになるまで再テストする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストの正答率や、学力テストの結果。</p>
<p><方策></p> <p>①単元テストで間違えた箇所が分かるようになるまで再テストする。</p>	<p><検証方法></p> <p>①単元テストの正答率や、学力テストの結果。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 単元テストで間違えた箇所を繰り返し解かせたことで、単元テストでは正答率を9割超えた。 実験を安全に丁寧に行ったことで年間を通して興味・関心を保つことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分で課題を見付けたり、実験方法を具体的に考えたりすることができていなかった。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験の丁寧に行い、体験的な学習の機会を増やしていく。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な事象から課題を見付け、自分なりに解決方法を調べたり考えたりすることができる児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 音楽科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和4年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において、音楽への関心が高いことが分かった。「学習したことをわかっている」という項目についてはA, Bと意見は分かれた。過去2年間でさかのぼると、この2つの項目については今年とほぼ同様である。感覚も感性もよく、すぐに「わかる」になる。しかし、意欲はあるが、深めようとする欲が少ないため、「広く浅く」の知識・技能になり、「もうできた!」となってしまう。もう少し深い学びをさせたいというのが課題である。また、ただ楽しく演奏するのではなく、全体の響きや伴奏を聴いて音(声)を合わせて演奏することも課題の1つである。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>①さまざまな音楽文化に親しむ →諸外国の音楽の鑑賞や和楽器に触れる時間を設ける。</p> <p>②基礎的な読譜能力を習得する →階名唱を行い、楽譜を読む力を育成する。音階が色分けして示されているシートを用いて、読譜指導を行う。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>①和楽器の箏を使い、音の出し方、様々な奏法を実際に体験し、本年度の課題の1つである、全体の響きを聴きながら、「合わせる」を体感させ、課題をクリアにしていく。</p> <p>②については、かなりの速度で階名読みができており、この目標は2年間で達成できている。そのため、階名や日本特有の音階をいかした音楽づくりを体感させ、学びを深めていく。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケート</p> <p>②授業内の実技発表</p> <p>③フォームを使ったアンケート</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dashed black;"> <p><検証方法></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析</p> <p>②授業内での実技発表の分析</p> <p>③授業内で行ったアンケートの分析</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケート</p> <p>②授業内の実技発表</p> <p>③フォームを使ったアンケート</p>	<p><検証方法></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析</p> <p>②授業内での実技発表の分析</p> <p>③授業内で行ったアンケートの分析</p>
<p><方策></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケート</p> <p>②授業内の実技発表</p> <p>③フォームを使ったアンケート</p>	<p><検証方法></p> <p>①学期ごとに行う授業アンケートの内容の分析</p> <p>②授業内での実技発表の分析</p> <p>③授業内で行ったアンケートの分析</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <p>音楽会では、人前で演奏する難しさ、楽しさを体感し、合奏ではずれるところなどを何度も合わせようとする姿勢が見られた。</p> <p><課題></p> <p>1学期に比べ、2学期後半から考えを深めようとする姿勢は見られるが、まだ、浅い部分もあるので、継続して深い学びを定着させていく。</p>	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <p>・歌唱分野は発声の仕方を児童が意識し、歌唱している。変声期に差しかかる年齢のため、無理のない発声ができるよう指導していく。</p>		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>・「これでいい」ではなく、音楽の感性を磨き、積極的に物事を追求する気持ちをもつ児童。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 図画工作科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「図画工作科の授業が好きか」という項目に関して、2名中2名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関しては、2名中1名が「はい」、1名が「どちらかというとはい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いが、学習内容の確実な定着については、改善が図られるとよいと考えられる。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 【課題】①自分と友達の作品の違いを認め、他者を尊重して表現及び鑑賞する態度。②構想したことを、筋道を立てて表現する。 【改善策】①発想及び表現の工夫に着目して自分や友達の作品を鑑賞できるようにする。②デジタルカメラで制作の様子を児童自らが撮影することで、振り返りを意識して行い、見通しをもって表現に取り組みさせる。 【評価】①造形的な視点をもって豊かに鑑賞することができた。②ICT機器を活用し、定期的に表現活動の様子を記録することで、効果的に振り返りをすることができた。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現活動においては、活動に応じて材料や用具を活用し、全学年までの学習内容や経験、技能等を総合的に生かしたり、方法などを組み合わせたりするなどして、活動を工夫する指導を行う。 表現活動における造形遊びの過程や振り返りに関して、児童自らがタブレット端末やデジタルカメラを活用することで、図画工作科の学習におけるメタ認知能力を高める。 アナログの造形日記による振り返りとデジタルのタブレット端末を活用した振り返りをハイブリット化し、造形的な視点による創造性の涵養を図る。データに関しては、評価評定に活かし、指導と評価の一体化及び授業改善に役立てる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業改善 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②授業デザインの学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画の作成 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 図画工作科の学習方法や目指すべき資質・能力を発達の段階に応じて示すことが日々の授業でできているため、効果的に学習を進めることができ、創造的な作品づくりや鑑賞活動につながった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校の指導経験がない中学校教員が児童の実態を確実に把握することは専科教員に多大な負担や教材研究が必要であるため、校務や報告書等の記述内容の精選を行い、効果的な教材研究をする時間を捻出することが必要になるだろう。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童のことを一番近くで指導し、理解している専科教員が、児童がより個性を生かした創造活動に取り組めるように、児童の実態に応じた弾力的な学習を引き続き展開していくとよいのではないだろうか。よって、発達の特性に応じた題材を常に検討しながら、他教科との教員とも連携して、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性をさらに尊重する態度の形成。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 家庭科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「家庭科の授業が好きか」という項目に関して、2名中2名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関しては、2名中2名が「はい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心は高いが、基礎的な知識の定着や自身の意見や考えを、具体的に表現することに課題が見られる。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習やICT機器を活用し、実際にイメージをもって、内容の理解を深められるような授業を展開する。 ・毎授業の振り返りをワークシートに具体的に記入させる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-right: 1px dashed black;"> <p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施</p> <p>②児童の理解度に合わせて、個に応じた支援を行う。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②ワークシート、課題、単元テスト</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施</p> <p>②児童の理解度に合わせて、個に応じた支援を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②ワークシート、課題、単元テスト</p>
<p><方策></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施</p> <p>②児童の理解度に合わせて、個に応じた支援を行う。</p>	<p><検証方法></p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析</p> <p>②ワークシート、課題、単元テスト</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童に合わせた個別支援により、基礎的な知識や技能を習得することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活に興味関心があまりなく、こだわりをもって作品を製作することが難しい。 ・自身の生活圏外での事象について、興味関心がなく受け入れられないこともある。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚教材や生活圏外での生活について知る機会を増やし、体験的な活動を通して理解を深める。 ・自身の生活と題材を関連させながら、引き続き指導していく。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活に興味関心をもち、生活の営みをよりよくしようとする意識を高める児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 体育科〉

<p>1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度1学期授業評価アンケートでは、「授業が好きか」「学習したことを理解しているか」「授業は分かりやすいか」「質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、2名中2名が「はい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、意欲的に授業に取り組み、体育科に関する見方・考え方を伸長することができているため、継続して授業内容をさらに発展させていく必要がある。 新体力テストでは、多くの項目で令和3年度の全国平均値を下回る結果がでた。基礎的な体力の向上が必要である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】①基本的な運動技能の習得。②仲間と協力し、課題を解決する。</p> <p>【改善策】①スモールステップで課題を提示し、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、練習させる。②学習カードやICT機器を活用し、視覚的に理解しやすくさせるとともに、ペアやグループで課題について話し合い、発表する機会を設ける。</p> <p>【評価】①積極的に練習し、基本的な運動技能を伸ばすことができた。②仲間と協力し、課題を改善することができた。</p> <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力やコーディネーション能力の向上を目的とした補強運動を設定し、年間を通して授業の導入部分で実践している。 学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントが視覚的に分かりやすいように工夫している。 個々の体力や技能に応じた課題・ルールを設定し、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、活動することができるようにしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 10px;"> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②新体力テストの実施 </td> <td style="width: 50%; padding-left: 10px;"> <p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②新体力テストの結果の分析 </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②新体力テストの実施 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②新体力テストの結果の分析
<p><方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施 ②新体力テストの実施 	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析 ②新体力テストの結果の分析 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 運動をすることの楽しさや喜びを味わいながら、各運動領域の種目に取り組むことができた。 新体力テストの結果により、自己の体力を把握するとともに、自分なりの目標をもって体力の向上に努めることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 新体力テストでは、依然として全国平均値を下回る結果が見られる。特に瞬発力、全身持久力に課題がある。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に運動に取り組むことはできているが、体力面に課題を抱えているため、ルールの緩和やスモールステップの課題提示など達成感を味わうことができるように配慮する必要がある。 運動が苦手な児童は、話し合いの際にも遠慮して発言できないことがあるため、意見を引き出すような配慮が必要である。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動の特性に応じた基本的な技能を身に付け、協力して課題に取り組むことができる児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第5学年 外国語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・教科書の内容の聞き取りや発音の仕方については良好だが、基本的な表現や単語を書くことに課題があると考えられる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・該当項目なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・考えや気持ちを伝える語句に慣れ親しませる時間を多く設定する。
- ・単元の終わりに単語や重要語句をワークシートに書く活動を入れている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①見本から書き写すことのできるワークシートを授業で取り入れる。

<検証方法>

- ①単元テスト, ワークシート

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・単語を書く時間を多く設定したことで、自分の伝えたいことを表現できるようになった。
- ・毎回の授業でリスニングを取り入れていたので、テスト等で正答率が高かった。

<課題>

- ・英語で発表する機会が少なかったため、学習したことを用いて文章を構成し、発表する力が弱い。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・単語や文章を書く機会を多く設定する。
- ・アクティビティやゲームを授業の中で多く取り入れる。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童の姿

- ・自分の伝えたいことをまとめ、相手に英語で伝えることができる児童。